

こども パスファインダー



よもうちゃん
と
いっしょに

としよかんで本を調しらべてみよう!



ようかい
妖怪

について調べてみよう!

パスファインダーとは、「道パス」
を「見つける人ファインダー」という意味
です。

調べたいと思うことをわかりやすく
紹介しょうかいするものです。

ここでは

ようかい
「妖怪」

について、本や情報じょうほうを見つめることが
できるよう、調べもののしかたをわかり
やすく案内あんないします。



だいごちゅうおうとしよかん
醍醐中央図書館

2020.10 作成



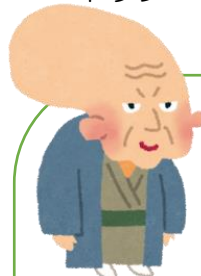
ようかい
「妖怪」について調べてみましょう

インターネットのデータベースをご紹介します。
いろいろな妖怪を紹介したこんなデータベースもあります。

『国際日本文化研究センター』(京都市西京区)

<https://www.nichibun.ac.jp/pc1/ja/>

トップページ→「データベース」をクリック



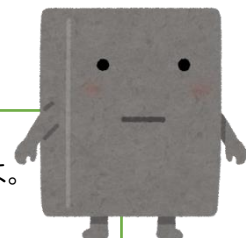
えどじだいやめいじ
江戸時代や明治時代に描かれた
いろいろな妖怪の絵が見れるよ。
妖怪の名前のほか、色やしぐさ
などからさがすこともできます。

「怪異・妖怪画像データベース」

<https://www.nichibun.ac.jp/YoukaiGazouMenu/index.html>

「怪異・妖怪絵姿データベース」

<https://www.nichibun.ac.jp/graphicversion/dbase/yokai-view.htm?>



いろいろな妖怪の言い伝えがわかるよ。
ちいき
地域や妖怪の名前でもさがせるよ。

てんしょう
「怪異・妖怪伝承データベース」

<https://www.nichibun.ac.jp/YoukaiDB/>

インターネットは、大人と
大人とよく相談してから
利用しましょう。

インターネットの情報は、書き換かえられる
ことがあります。

しらひづけ
調べた日付や、

見たホームページのアドレスを
記録しておきましょう。





「妖怪」について調べてみましょう



妖怪について調べるときのキーワード

- 幽霊(ゆうれい) ●もののけ ●あやかし ●おばけ ●怪異(かいい) ●おに
- 百鬼夜行(ひゃっきやこう) ●民俗学(みんぞくがく) ●伝承(でんしょう)
- てんぐ ●ぬらりひょん ●河童(かっぱ) ●ぬりかべ ●ろくろ首 ●ざしきわらし など…

① 「調べものの本」コーナーで百科事典や辞典、図鑑を調べてみましょう!

百科事典ではテーマを理解するとともに、キーワードを見つけることができます。

事典や辞典、図鑑をひらくときは、目次や索引を使うと便利です。

所蔵場所	請求記号	書名(著者 出版社)
児参	R031 ソ	総合百科事典 ポプラディア (ポプラ社)
参考	R388.1 二	日本怪異妖怪大事典

② 検索機(OPAC)を使ってみましょう!

キーワードや本の名前、書いた人の名前を入力すると、本をさがすことができますよ。

京都市図書館のホームページ (<https://www2.kyotocitylib.jp/>) からでも

図書館の本をさがせます。



③ 図書を本だなどでさがしましょう!

本の背表紙には、検索機(OPAC)で調べたときの表示と同じ【請求記号】

(数字の分類番号、カタカナの図書記号)のラベルがついています。

請求記号とは、本がどこにあるかを表す住所です。

まず、【所蔵場所】が【児童】【児参】【一般】【郷土(きょうとのほん)】など、

どの場所にあるかたしかめしてから、【請求記号】をたよりにして本をさがしましょう。

「妖怪」についての本は「388」の番号を見ましょう。

【庫1】【庫3】などは書庫の本です。職員に声をかけて下さい

【請求記号】

388 ヤ

↑ ↑
分類番号 図書記号

まずはラベルの
数字を見ましょう。

次にカタカナを
見ましょう。

たとえば「妖怪」に関するこんな本があります。

所蔵場所	請求記号	書名(著者 出版社)	内容
児童	388 二	ビジュアル版 日本の妖怪百科 (岩井宏實・監修 河出書房新社)	日本全国に伝わる妖怪を、たくさんの 図版と共に紹介しています。
児童	388 ト	大天狗先生の妖怪学入門 (富安陽子・著 こどもくらぶ・編 丸善出版)	妖怪とはなにか。いつどこからきたの か、大天狗先生が解説してくれます。
児童	388 コ	歴史図鑑もうひとつの世界-妖怪-あの世-占い- (国立歴史民俗博物館・編 岩崎書店)	妖怪やお化け、占いや陰陽道などにつ いてもわかりやすく書いています。
児童	コワイ/ 388 ミ	世界の妖怪百物語 (水木しげる・著 小学館)	「ゲゲゲの鬼太郎」を描いた水木しげる さんが集めた、世界の妖怪のおはなし。
児童	388 二	日本の妖怪百科 5 妖怪を調べる手引き・索引 (岩井宏實・監修 河出書房新社)	本や博物館など、妖怪について調べる ための手引きを紹介しています。

きょうど
郷土の妖怪についても、

調べてみましょう

ここ、京都市や京都府内にも

妖怪や不思議な伝説が

たくさん伝わっています。

あなたも、知っている妖怪があるかな？

見たこと、聞いたことがあるかな？

京都の妖怪を調べる本を紹介します。

京都の妖怪について

調べるときのキーワード

- 橋姫・宇治の橋姫
(はしひめ・うじのはしひめ)
- 玉藻の前(たまものまえ)
- 羅城門の鬼(らじょうもんのおに)
- 土蜘蛛(つちぐも)
- 式神(しきがみ)
- 天狗・鞍馬天狗(てんぐ・くらまてんぐ)
- 宗旦狐(そうたんぎつね)
- 鶴(ぬえ)
- 百鬼夜行(ひゃっきやぎょう・ひゃっきやこう)
- 付喪神(つくもがみ)
- 一条戻り橋(いちじょうもどりばし)
- 安倍晴明(あべのせいめい)

など…



分類ってなに？

「分類」は本の内容を数字におきかえたものです。その数字で図書のおおまかな内容がわかります。分類をてがかりにすると、調べたいことがらに早くたどりつけて、便利です。

000	調べるための本, コンピュータ, 図書館
100	こころ, 宗教
200	歴史, 伝記, 地理
300	社会, くらし
400	理科, 算数
500	環境, 機械, 工業, 家庭科,
600	産業, 交通
700	芸術, スポーツ, いろいろな趣味
800	国語, いろいろな言葉
900	詩, ものがたり





300のグループ

国や社会のしくみとはたらきについてや、教育、昔話や世界の生活に関する本のグループです。

300	社会	妖怪や伝説の分類は [388] です。
310	政治, 人権, 国際問題など	
320	法律, 裁判, 条約	
330	経済, 資源, 会社	
340	お金について(財政, 予算, 税金)	
350	統計(国勢調査, 人口統計)	
360	社会, 働くこと, 福祉	
370	教育(学校や, 学びのこと)	
380	民話, 伝説, 迷信などのこと	
390	戦争や軍隊のこと, 国を守ること	

さがしている本が見つからないときや
もっと調べたいときは、お気軽に
職員におたずねくださいね。
調べるお手伝いをします。



妖怪の名前	どんな妖怪か	紹介されている本
鵺(ぬえ)	<p>頭は猿,胴は熊,手足は虎,しっぽは蛇。</p> <p>『平家物語』という昔のお話に出てくる,源頼政の『鵺退治』の話が有名。</p> 	「水木しげるの妖怪事典」 (水木しげる・著 東京堂出版)
付喪神 (つくもがみ) /百鬼夜行 (ひゃっきやぎょう・ひゃっきやこう)	<p>「百鬼夜行」とは,京都の一条通りを「付喪神」と呼ばれる古道具の妖怪たちが行進したという伝説です。</p> <p>これにちなみ,京都市の北の大將軍商店街では,妖怪をテーマにした仮装行列などを行っています。</p>	ビジュアル版 日本の妖怪百科 (岩井宏實・監修 河出書房新社)
鞍馬天狗 (くらまてんぐ)	<p>京都の北,鞍馬山に住むという天狗。</p> <p>顔は赤く鼻が高い。八つ手の葉のうちわで大風を起こしたり,自由に空を飛ぶこともできる。</p> <p>牛若丸は天狗と修業したという伝説もある。</p> 	「少年少女版日本妖怪図鑑」 (岩崎宏實・文 文化出版局)
宇治の橋姫 (うじのはしひめ)	<p>宇治橋を守る神とも,嫉妬深い女性の鬼とも,様々な説がある。一条戻り橋の,鬼とも神様だとも伝えられている。</p>	「日本の妖怪百科2 水の妖怪」 (岩崎宏實・監修 河出書房新社)
玉藻の前 (たまものまえ)	<p>天皇のお后だった玉藻の前は,実は,いろいろな国を滅ぼした,「九尾の狐」(しっぽが9本あるキツネ)だった。</p> 	「日本の妖怪すがた図鑑1」 女のすがたをした妖怪 (常光徹・監修 ミネルヴァ書房)
酒呑童子 (しゅてんどうじ)	<p>おおえやま 大江山にすむ,お酒が大好きな鬼のかしら。</p> <p>大江山は丹波の国の大江山,もしくは京都市西京区の山とも伝えられています。</p>	「日本の不思議伝説大図鑑」 (湯本豪一・監修 PHP) 「鬼が出た」 (大西廣・文 福音館書店)
土蜘蛛 (つちぐも)	<p>病に苦しむ,源頼光の枕元に巨大な法師が現れる。</p> <p>刀でなぎはらい,あとを追うと巨大な蜘蛛の妖怪が現れ,頼光と死闘を繰り広げた。</p> 	「妖怪ビジュアル大図鑑」 (水木しげる・著 講談社)